高度なバイオテクノロジーと最新鋭の設備から
最高濃度の含有量を秘めた、

「黒酵母スーパー・β(ベータ)-グルカン」が誕生しました。

驚異の高濃度、「黒酵母・β-グルカン」とは?

β-グルカンは、近年、アメリカを始め世界各国で注目され、数多くの大学研究機関・医療機関により次々と研究発表が行われています。20年に及ぶ研究の中で、自然界から発見された黒酵母菌を、高度なバイオテクノロジーと最新の設備、厳重な生産管理のもと、他に類を見ない天然の多糖量を含有する「β-グルカン培養液」の培養に成功しました。これは「β-1.3・1.6グルカン」と呼ばれ独特の化学構造を持つβ-グルカンで、今世紀最大の発見ともいうべき商品です。
β-グルカンは、安全性においても他に類を見ません。

アウレオバシジウム

人類が古くから活用してきた微生物「酵母菌」の研究過程において、ある種のジェル状の黒酵母菌(学術名アウレオバシジウム)β-グルカンが発見され、その後長年の研究と高度なバイオテクノロジーによって培養し、優れた「β-1.3・1.6グルカン」の生成に成功しました。

アウレオバシジウムの特徴

- ■免疫システムを活性化
- ■癌やウイルスを減退し、不必要な炎症や自己免疫疾患アレルギーなどを抑える。
- ■癌・白血病・糖尿病に高い効果がある
- ■血液中のカルシウムを効率よく運び、膵臓のβ細胞の働きを活発にさせることによってインシュリンの分泌を促進させて血糖値を正常化させる効果がある。
- ■女性ホルモンのバランスを調節したり免疫システムの異常から起こるアレルギー症状・リュウマチ・膠原病などに大きな効果がある。
- ■培養液を3年以上摂取している人は、摂取していない人に比べ免疫力を5倍から7倍高める。
- ■ビタミン・ミネラル・タンパク質などがバランスよく結合している為、生活習慣病の原因となる活性酸素を取り除く。
- ■栄養素の運搬に最適、様々な食品と合わせて摂取することが可能。
- ■体内の毒素を排出する。

SUPER BETA GLUCAN

「黒酵母β-1.3・1.6グルカン」は、キノコ類に比べて**多糖含有量が約10倍の高分子多糖体**です。
「黒酵母スーパー・β-グルカン」は、アウレオバシジウム(黒酵母)を主体にして、「水溶性マリンコラーゲン」や「ルテイン・β-クリプトキサンチン」等を効果的に加えた最強の健康飲料です。

配合成分(一部)

黒酵母スーパーβ-グルカンは、健康をテーマとして当組合と老舗製薬会社開発部との共同により、期間をかけて開発された商品です。

[APF202菌]

アウレオバシジウムと言われる黒酵母が、培養液内において菌体外に産生する、過去に無いβ-1.3・1.6グルカンです。APF202菌は、このアウレオバシジウム培養液の中でも多数の大学研究機関・医療機関において研究されています。APF202菌は、その特異的な性質から、保水性作用・抗酸化作用・生理活性作用・生体機能調節作用・抗腫瘍作用の研究がなされており今後、今世紀最大の発見と言われる可能性を秘めた素材です。

[マリンコラーゲン・ペプチド]

コラーゲンは、皮膚・骨・筋肉・目・髪の毛などに含まれているタンパク質で、私達の体を構成するタンパク質の約1/3がコラーゲンで出来ています。コラーゲンは、細胞と細胞をつなぐ役割を担い、皮膚の潤い・ハリ・関節のクッション、血管の弾力性などに大きな影響を持ちます。また、体内で常に新陳代謝を繰り返していますが、加齢と共にその生成能力も衰えていきます。30歳を超えるとコラーゲンの新陳代謝は、18歳の頃と比較して約半分以下になると言われています。また豚コラーゲンの分子量が30万前後に対してこのマリンコラーゲンは1万~2万程度とかなり小さく豚コラーゲンの15倍~30倍の吸収率があります。

[ガラクトオリゴ糖]

1.腸内のビフィズス菌増殖
ガラクトオリゴ糖は、腸内に棲息している有用菌の代表とされているビフィズス菌を選択的に増加させます。
2.難消化性(低カロリー)
ガラクトオリゴ糖は、小腸内の消化酵素に分解されず、大腸まで到達することが確認されています。

[カプサイシンフレーバー]

とうがらしの辛味主成分カプサイシンには、種々の活性作用があることが分かっています。カプサイシンは体脂肪の燃焼、新陳代謝の活性、便秘の解消、発ガン抑制などさまざまな研究報告がなされています。

[リコピン]

カロチノイドの一種で、緑黄色野菜や果物に多く含まれ、特にトマトの真っ赤な色素成分として知られています。β-カロチンやルテインと並ぶ抗酸化作用があり、活性酸素から細胞の酸化(老化)を防ぐ働きがあります。その、活性酸素消去機能はβ-カロチンの2倍以上と言われています。

[ブルーベリーエキス+アントシアニン]

人間の目がはっきり見えるというのは、レンズから入った光が眼球内面の網膜を刺激して生じた信号が脳の視覚領域に送られるからですが、この信号は入ってきた光の刺激で網膜にあるロドプシンという色素体が分解・再合成を繰り返す連続作用で生じます。このロドプシンに活性を与えて、分解と再合成を促進させれば視覚機能が高まりますが、ブルーベリーの色素成分のアントシアニンにその働きがあると証明されています。また、アントシアニンはビタミンPと共同して、体内で活性酸素を消去し血管に過酸化脂質が蓄積することを防いで抹消血管の弾力を保つ結果、網膜を活性化して視力を回復し、さらには白内障や眼精疲労を抑えるとともに、老化防止、抗炎症作用の増強に繋がることが期待されています。

[β-カロチン]

カロチノイドの中でも最も多く存在し、早くからその効力が注目された緑黄色野菜の中枢成分です。現在では、活性酸素による発ガンの危険を抑える働き、動脈硬化、老人のボケを防ぐ抗酸化剤として、広く研究されています。

[β-CRX(温州みかんエキス)]

1.骨粗鬆症予防作用(破骨細胞分化抑制作用)
骨粗鬆症の原因の一つと考えられる破骨細胞の分化を抑制すれば、破骨細胞の数が減少し、骨吸収が抑制されると考えられます。
2.美白・美容作用
(A)チロシナーゼ阻害作用
肌のくすみや色黒、シミは、メラニンが原因です。生体内では、チロシナーゼの働きでチロシンからドーパキノンを生成し、その後、酸化反応などが進行してメラニンを生成します。温州みかんエキスが、このチロシナーゼの働きを阻害することが、明らかとなりました。
(B)B16メラノーマ細胞メラニン産生抑制作用
温州みかんエキス添加培養系では、メラニンの生成が抑制されることが明らかとなりました。温州みかんエキスは、メラニン生成抑制作用を有することで、肌の美白作用を有すると考えられます。
(C)色素沈着抑制作用
紫外線を浴びることで、メラノーマ細胞からメラニンが産生され皮膚が黒色化していきますが、温州みかんエキスは、色素沈着抑制が確認されました。
(D)細胞賦活作用
温州みかんエキスは、真皮線維芽細胞の増殖を促し、皮膚の活性化、アンチエイジングの効果が期待できます。

[ヒアルロン酸]

ヒアルロン酸は、酸性ムコ多糖類の一種で、目の硝子体・臍の緒・関節液・皮膚肋膜液・血清や鶏のトサカ・サメの皮・鯨軟骨などに多く存在しています。
優れた保水性があり、1gで6ℓの水を保水します。

(効果)
老化防止・生理痛の軽減・骨粗鬆症・更年期障害の改善・貧血症の改善・発毛促進・関節炎やリュウマチを改善・動脈硬化の改善・血管の老化防止・活性酸素の除去・傷の治癒

[有胞子性乳酸菌製剤・ラクリス-S]

有胞子性乳酸菌製剤ラクリス-Sは、胞子を形成するため、安定性が高く、生きた乳酸菌を各種食品に利用することが可能です。例えば、ビフィズス菌は、嫌気状態でないと死滅しやすく、生菌のまま食品に利用することは非常に困難な上、摂取したとしても胃酸のため腸管への到達率は低いと言われています。一方ラクリス-Sは熱・酸・酸素に対して安定であるため、食品への添加も容易な上、胃酸のダメージを受けることなく、確実に腸管に到達します。腸内有害細菌の増殖を抑え、腸内菌数のバランスを整え、健康な腸を保ちます。

[グリシン(アミノ酸)]

アミノ酸のひとつであるグリシンが睡眠の調節機構の有力な因子として働いている可能性が明らかになりました。成人の眠りは乳幼児、動物などのように短い眠りを終日繰り返すのではなく、生活リズムと同調して夜間にまとまって起こります。このような睡眠パターンを作り上げるためには様々な調節物質が関与していることが想定されています。グリシンは、有力な調節物質として機能している可能性を示すと共に、加齢や生活習慣、ストレスなどで調節機能がうまく働かなくなり睡眠に問題が生じている場合に、グリシンを就寝前に摂取することで、良質な睡眠が回復してくる可能性を示しています。

[果糖ブドウ糖液糖]

ブドウ糖の構造を酵素を用いて甘味の強い果糖に変換した液糖で、「ブドウ糖・果糖液糖」や「果糖・ブドウ糖液糖」と表示されています。甘味は砂糖に比べてサッパリとした爽やかなもので、砂糖に比べ後味が残らない特徴があります。

[ショウガエキス]

ショウガは、痛みの原因物質を抑えるといわれているほか、血行をよくする働きもありますので、関節や周囲の筋肉に十分な栄養を供給でき、筋断損傷の回復にも有用な成分です。

[ルテイン]

植物のマリーゴールドに含まれる成分で、そのカロチノイドとしての抗酸化作用と共に、近年の研究では眼病の予防に有用であるといわれています。特に米国では40歳以上の成人が視力を損失する主要原因の1つに加齢性黄斑変性病(AMD)と言う眼病があります。この疾病の原因として、黄斑部における抗酸化は、網膜に非常に有害な脂質の過酸化をひきおこし、人間は高いエネルギーを持っている青色光に最もおかされやすいので、黄斑部に存在するルテインとゼアキサンチンは青色光を吸収しそれによる害を防止します。人間の目には、このルテインとゼアキサンチン以外のカロチノイドは存在せず、摂取により、消費しなかった人との比較ではAMDの罹患率が43%低いという研究データも出ています。